

月刊 ORANGE SUNSHINE 第9号

発行日: 令和3年11月13日(土)

第9号では以下をお伝え致します。

- ◆リーグ戦(FINAL)の結果
- ◆4回生引退特集

◆リーグ戦情報

10月17日(日)に観音寺総合運動公園で中四国ラクロスリーグ戦FINAL(VS岡山)が行われました。

◆スコア

	1Q	2Q	3Q	4Q	合計
徳島	0	0	0	3	3
岡山	2	1	2	2	7

徳島得点者

- # 3 今井駿太 (4Q 1分)
- # 98 杉本健介 (4Q 7分)
- # 1 能瀬赴颯 (4Q 9分)

岡山得点者

- # 1 (1Q 8分)
- # 2 (1Q 9分)
- # 81 (2Q 13分, 3Q 9分)
- # 11 (3Q 8分)
- # 0 (4Q 1分)
- # 30 (4Q 3分)

◆メンバーリスト

FINAL TOKUSHIMA UNIV. MEMBERS

AT

- 18 NOBUOH 4年
- 6 DAIKI 4年
- 1 TAKEZOH 3年

MF

- 98 KENSUKE 4年
- 23 RITSUKI 4年
- 47 KENTARO 4年
- 96 GEN 4年
- 70 MASATO 3年
- 14 RYO 3年
- 41 NAOYA 2年
- 67 KANTA 2年
- 34 MANATO 2年
- 4 HIROTO 1年
- 64 KEISUKE 1年

DF

- 3 SHUNTA 4年
- 0 YUTA 4年
- 15 KANTARO 4年
- 77 YUMA 3年
- 27 RYOSUKE 3年
- 7 KAKERU 2年

G

- 51 DAICHI 4年
- 5 KAZUHO 4年
- 56 KEITA 4年

TS

- MG RINA 4年
- TR KOTONE 4年
- MG MIZUKI 3年
- MG TOMOKI 3年

2021.10.17 CHUSHIKOKU LEAGUE VS OKAYAMA

【1Q】

心配された天候も持ちこたえ緊張感の漂う中、試合開始のホイッスルが鳴る。#3今井駿太(DF・4年)のロングF.O.でスタート。#3今井のナイスGBで徳島が最初のポゼッションを獲得。しかしその直後、相手に囲まれボールダウンを許し岡山ボールに。岡山がショットを狙いパス回しをするが、左横#15森本寛太郎(DF・4年)がナイスチェックによって見事ボールを奪い返し、徳島のクリアが始まる。#98杉本健介(MF・4年)にパスが渡りクリア成功。開始2分で試合が大きく動き始める。#18岸伸旺(AT・4年)が左横からショットを打つ。惜しくも相手ゴールキーパーにセーブされるが徳島に勢いがつく。3分再びボールを奪われるが、岡山のショットを#51東大智(G・4年)が見事セーブ。ゴール前で#15森本がGBに成功するも、クリアに失敗し徳島は再びDFとなる。その後#47小野健太郎(MF・4年)のパスカットによってクリアに成功、5分再びチャンスが訪れる。#47小野から#1能瀬颯(AT・3年)、#18岸を経由し、右横から#98杉本がショットを放つも得点ならず。ショットのこぼれ球を岡山DFにGBされ徳島のライド。ライド途中で岡山にフラッグが飛び、徳島はこの日初のエキストラ。徳島からリスタートが始まるが、ボールダウンでチャンスを逃す。岡山ボールになり、ここで岡山が最初のタイムアウト(以下T.O)を取る。T.O明け、8分をすぎたところで岡山#1のショットが決まりスコアは0-1と先制点を許す。さらに、9分でもう1失点でスコアは0-2。負けじと徳島も#98杉本がショットを打って反撃するが得点にならず、第1Q終了。得点は0-2。

【2Q】

岡山F.Oerの素早い反応で岡山OFからスタート。序盤から岡山の攻勢が続くが、DFのチームワークと#51東のナイスセーブで守り切る。4分を過ぎたところで岡山2回目のT.O。何としてもここで点を取りたい徳島。T.O明けも岡山の攻撃は緩むことなく続く。岡山のパスミスで徳島からリスタート。が、またしてもパスミスで岡山ボール。相手のショット枠外で跳ねたボールを#23新屋立葵(MF・4年)がGB。6分、ここでもう一度チャンス到来。#1能瀬がショット枠外。チェイスを取って徳島のOFは続くが、パスミスからのオーバーアンドバックで相手ボール。岡山のOFが続く中、#0多田羅佑太(DF・4年)がボールを奪い、#47小野がGBでクリア。9分、ここで徳島のT.O。徳島OFでリスタートし、#23新屋がショットを打つが枠外で得点にならない。良い流れが続く中、ゴール裏でのボールキープ中に自らラインアウトしてしまうという痛恨のミスで岡山ボールに。岡山#81のショットを#51東がセーブしそのままクリア。11分、ハーフ付近で岡山のインターフェアランスで本日2回目のエキストラ獲得。エキストラを活かしてクリア前の#18岸にパスが渡り見事にDFをかかわしてショットを放つが、相手ゴールキーパーのナイスセーブで得点ならず。こぼれ球を#47小野がGBし再びOFになるが、ボールダウンからの岡山のファストブレイク。岡山#81のショットが決まり、スコアは0-3。好機を生かせず無得点で第2Q終了。

【3Q】

F.O.で掻き出されたボールを#0多田羅がナイスGB。#6加藤大暉(AT・4年)に続き#18岸、#23新屋、#47小野が積極的にシュートを放つ。しかしパスミスで岡山OFになる。その後、何度もチャンスを迎えるものの小さなミスが目立ち、なかなかクリアを上げることができない苦しい時間が続く。岡山#11、#81にショットを決められスコアは0-5。失点後も岡山OFが続くが、徳島DF陣が少しの隙を突こうと奮闘。12分、#98杉本のパスカットをきっかけに#3今井がGB、クリアに成功。#18岸がショットを打つが強靱なDFに阻まれて得点ならず。ラスト1分を迎えたところでチャンス到来。何としてもここで点を決めたい徳島。#29久保田正人(MF・3年)、#18岸がショットを放つがまたしても枠外で第3Q終了。スコアは0-5。劣勢が続く。

【4Q】

第4Qも#3今井のF.O.で始まる。自らGBし勢いよくファストブレイク。相手DFを抜き去り、見事ショットを決める。開始10秒での待望の得点に会場から歓声が沸きあがる。本日初の得点で1-5。ナイスプレー！しかしその後岡山に2失点を許し、1-7。6分を過ぎたところで岡山のイリーガルボディチェックによって本日3回目の徳島のエキストラ。その直後、左横から#98杉本のショットが決まる。スコアは2-7。8分、ここで岡山のT.O。#18岸のパスミスを#98杉本のGBによってケア。#98杉本からフリーで受けた右横#1能瀬の豪快なショットが決まる。スコアは3-7。その後も両者積極的にゴールを狙うが、互いに得点を許さず試合終了のホイッスルが鳴り響いた。最終スコアは3-7で岡山大学に敗れる。

【感想】

3,4回生にとっては、2年前に見た憧れの舞台であったFINALだった。実際にベンチに入った経験のあるメンバーも少なく、今年の徳島にとってはまさにチャレンジであった。そんな中で、DFは主将の今井を中心に7失点に抑え込んだ。これは岡山にとって今シーズン公式戦で最少得点数であり、DF面では一定の成果を挙げられたと考えている。一方OF面では最終的には3点を奪ったものの、3Qまでチャンスを活かせず無得点に終わり、決定力という点で今後への課題が残る結果となった。また、1,2回生にとってもFINALの雰囲気を感じることができ、良い経験になったと思う。徳島大学男子ラクロス部に関わってくださったOB・OG皆様、応援してくださった皆様本当にありがとうございました。

HC 中原 大輔 (2010年卒)



◆リーグ総括コメント

今年は今までのリーグ戦を『戦力』として戦った選手が少なく、“勝利”と“育成”を両立させるべくリーグ戦に臨みました。例年と違う点としては、ベンチに1枠「1回生枠」を設け、常に1回生にチャンスを与える環境を作りました。

◆香川戦(8/7)

久しぶりの対外試合ということで、細々した戦略はたてず、今までやってきたことを発揮する中で、今後の課題の抽出や新戦力の発掘に重きを置きました。プレーの粗さや体力面の課題が顕著に出た一方、1回生2名が上回生に物怖じせずしっかりと戦い成果を上げていくシーンには未来の希望をみました。(この試合の後コロナによる自粛が入り、チーム練ができなくなりました)

◆愛媛戦(10/9)

自粛明け間もないこと、翌日に松山戦が控えていることから3,4回生ショートの体力を温存すべく、『2,3Qはどのような点差であれ、2回生中心に戦う』という決まりをチームで持って試合に臨みました。

2回生は粘り強く戦ってくれたこともあり、失点は少数で抑えることができましたが、主力含め得点がなかなか決まらず、苦しい試合となりました。主将今井がロングながらDF/FO/OFと八面六臂の活躍で辛くも勝利しました。

◆松山戦(10/10)

ファイナル出場のかかった試合、勝つこと、全てを出し切ることをテーマに臨みました。開始早々の高橋のFOブレイクからの得点で流れをつかみ、その流れにのって得点を重ねていきました。

中盤以降も気が緩むことなくプレーを続け、試合が終わってみれば10-0と完勝でした。無失点で試合を終えたのは数年ぶりのことで、内容結果共にFINALに向けて自信をつける試合となりました。

◆岡山戦(10/17)

試合のプランとしてはOFは7点以上取ること、DFは6失点に抑えることを目標に試合に臨みました。

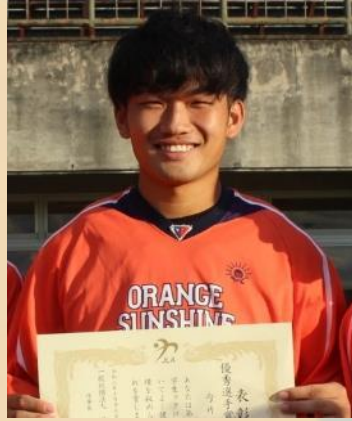
DFに関しては、G東の大活躍を中心に前半を3失点で折り返す等素晴らしい出来でした。OFはスカウティングが当たり、相手を崩してシュートまでは持っていけましたがなかなか決めきることができませんでした。

両チームともミスが目立った試合展開の中で、要所のミスが少なかった岡山大学が着実に点を積み重ねていきました。

また、試合途中で相手ライドにつかまり、対応が遅れたことも響き、3-7で敗れました。ここ数年の徳大の課題である、『得点力不足』の課題は今年も克服することができませんでした。

オフェンスコーチ高木(2020年度)や三宅(2021年度)を中心に取り組んできた改革で相手DFを崩してシュートに持ち込むシーンは増えてきているので、今後は最後の決めきる部分に例年以上にフォーカスをしていきたいと感じています。

主将 今井 駿太



◆リーグ総括コメント

開幕戦からFINALまでの約2ヶ月間を総括します。
今年度は「全学出場」をチーム目標として掲げ、この目標を達成するために、まずは四国リーグ全勝、そして中四国制覇を達成しようと活動をしました。結果としては、四国リーグは全勝することができましたが、FINALで岡山大学に敗れ、目標である「全学出場」を達成することができませんでした。

また、今年度は勝ちにこだわれるような強い集団を目指して活動をしてきました。実際に、FINALではGBの勝率が上回るなど、技術以外の部分では負けていませんでした。1on1などの対人能力に関してもナイター練で取り組んでいたおかげで負けてはいませんが、個人技術であるパスキャ能力やシュートの決定力という部分で大きな差があったと感じました。

そして、岡山大学との一番の大きな差が選手層の厚さだと感じました。岡山大学は22人がFINALで出場しているのに対して、徳島大学は15人のみの出場でした。四国リーグであれば出場できる選手はいますが、FINALなどのレベルの高い試合になれば出場できない選手が多くいるため、徳島大学が今後勝ち続けていくためにはボトムアップをどれだけできるかが必要になってくると思います。

改善点として、今年度はコロナウイルスの影響により他大学との練習試合ができず、試合がリーグ戦のみという状況だったので、来年度は練習試合数を増やすことでボトムアップを図ることができ、選手層の厚さを改善できるのではないかと思います。

◆2021リーグ全試合のスコア

◆香川戦(8/7)

	1Q	2Q	3Q	4Q	合計
徳島	2	2	8	3	15
香川	0	0	0	2	2

◆愛媛戦(10/9)

	1Q	2Q	3Q	4Q	合計
徳島	1	2	2	2	7
愛媛	0	0	2	1	3

◆松山戦(10/10)

	1Q	2Q	3Q	4Q	合計
徳島	4	3	1	2	10
松山	0	0	0	0	0

◆岡山戦(10/17)

	1Q	2Q	3Q	4Q	合計
徳島	0	0	0	3	3
岡山	2	1	2	2	7



今井 駿太 (いまい しゅんた)
 工学部理工学科応用理数コース
 ポジション：主将、DFリーダー
 進路：就職

大学でラクロスを4年間続けてこられたことは、これまでの人生で一番の宝物になったと思います。理由はいくつもありますが、一番は「学生最後の青春を楽しめたこと」というのが僕の中では大きいです。

そもそも僕がなぜラクロス部に入ったかという、ラクロス部に新歓される度に熱い大学学生を送りたくなくなっていったのがきっかけで、実際に4年間ラクロス部で過ごして、それは実現できたと感じています。



1年生のときは練習終わりに何時間も総グラに残って自主練をしたり、2年生のときはAチームBチームを彷徨ってやること全てが上手いかず泣いたり、3年生のときは幹部になってDFについて考えることが増えたり、4年生になってからは主将としてチームを引っ張ったりと色々なことがありました。一番刺激的だったと思うのはオーストラリア遠征で、オースト



ラリアとアメリカの高校生相手にフィジカルで負けたり、テクニックに魅了されたりともっと上手くなりたいと思うきっかけでしかなかったです。初の海外で1週間ラクロスのことしか考えない日々は刺激的で本当に楽しかったので、海外にラクロスをしにいける機会がある人は絶対にいくべきだと思います。

このように楽しいことがたくさんあるラクロス部ですが、楽しいこと以上に苦しいこともあって、その苦しいことを乗り越えることができたのは、乗り越えた先に楽しい未来が待っていたから、そして同期がいたからです。何度も挫けそうになりましたが、その度に同期に支えられ、ラクロスを続けてこられたことは僕にとっての財産で、本当に感謝しかないです。本当にありがとうございます。最高の仲間に出会えました。

これからはOBとして、この成長できる環境を守るためにも関わっていきたいと思います。4年間本当にありがとうございました。





森本 寛太郎 (もりもと かんたろう)

理工学部理工学科社会基盤デザインコース
ポジション：副将、DF副リーダー
進路：大学院進学

僕の中でラクロスを4年間続けてよかった事は、一生の仲間に出会えた事です。僕は今までの人生で、自分のやりたいことや、思ったことを口にして語り合った経験がありませんでした。

アホみたいに早い時間にマネージャーからの電話が鳴り、目を擦りながらグラウンドに向かい、がむしゃらになりながら真剣にラクロスに取り組むような日々は、どの大学生よりも充実していました。

何も考えずに生きていたという部分もあると思いますが、ラクロスというスポーツに出会い、そこに集まった同期たちと出会い、監督、コーチ、そして後輩のみんなと出会い、目標や夢について語り合う日々が増えたこと。伸び悩んでいるときに、なんのいやな顔もせず話を聞いてくださり、ご指導して下さった先輩の方々、それにうんうんと温かい目で見守って下さったスタッフの方々。苦しい日も楽しい日も共にしてきた仲間たちとの絆はこれからも切れる事はないと思います。

そんな、最高の仲間達に出会えたことが何よりも財産で、出会わせてくれたラクロスというスポーツの出会いにも感謝しています。

この4年間、アホみたいに怒られて、道を踏み外すこともたくさんありましたが、本気で怒ってくれて、本気になってくれるそんな人達に出会えて本当によかったです。僕と関わって下さった全ての人に感謝しています。



岸 伸旺 (きしのぶおう)

生物資源産業学部生物資源産業学科
生物生産システムコース
ポジション：副将、ATリーダー
進路：大学院進学

私が徳島大学でラクロスを4年間続けてよかったことは、2つあります。1つは最高の仲間に出会えたことです。時に仲間として、時にライバルとしてお互いに切磋琢磨してそれぞれの技術を磨いてきた日々はこの先忘れることはないと思います。また、ラクロスという競技だけでなく、部活の運営などでも毎年困難にぶつかり、そのたびに話し合って同期やチームをより良いものにしていこうと努力できたのもラクロス部のことを大切に思っている同期だからこそくじけずにできたのではないかなと思います。この4年間、たくさんの障害を乗り越え、お互いに高めあい、時にくじけそうになった仲間を引っ張り上げ、ここまで残った同期は最高の仲間です。一緒にラクロス生活を過ごせたことをうれしく思います。

2つ目はラクロスという1つのスポーツに全力でぶつかったことです。徳島大学ラクロス部の新獲に参加していた時期、先輩の練習姿や話を聞いて全員が目標に対して真摯に向き合っていく姿勢に憧れてラクロス部に入ったことを覚えています。



ひたすらに日々練習やミーティングを積み重ね、自分のため、チームのため、そして応援して下さる人々のために目標を達成する。掲げた目標を達成するために全力でラクロスに取り組めたことはこれからの人生の糧になると思います。

最後に、この4年間徳島大学ラクロス部の部員でいられてとても楽しかったです。本当にありがとうございました。



池田 梨菜 (いけだ りな)

理工学部理工学科応用化学システムコース

ポジション：TS長 (MGリーダー)

進路：就職

たったの4年間でしたが、その4年間でたくさんのことを学ぶことができました。

審判のことはよく話していたので、今回はスタッフとしてのことについて書こうと思います。

1年生の時、楽しそうに友達も入部したからと安易な理由で入部しました。こんなにハマるとは思いも知らず、(笑)

正直、1年生の頃が1番何も考えずたくさん迷惑をかけながら楽しませてもらっていたと思います。何もかもが新しく

テーピングもラクロスについての勉強も同期たちの頑張りも、こんなに熱くなれるものがここにあるんだと心を弾ませていました。あまり良くないんですが、授業中にはルールブックを開いて、空きコマのときには総グラに行って同期たちが自主練してるのをボールケアして手伝って、保健の先生をしてる母にわからないことをたくさん聞いて、1日中ラクロスのことを考えてました(笑)

2年生になった時は少し思うようにいかず、望んでなった審判のはずなのにスタッフ業が全然できない時期が続きました。おかげさまで審判の勉強はたくさんできたんですけどね。でも、悔しかったから、その頃から好きになってたFOについてYouTube見て少し

勉強しました。何かもっと役に立ちたい、何かしてあげたい、それしか考えられませんでした。

3年生になる頃にはユースの選考会に行きました。12.3人スタッフがいる中で1枠しかないMGの枠に抜擢してもらえました。少ししか練習できなかったけど、30~40人をほぼ3人で回すのは本当にしんどかった、でもそれ以上に自分のスタッフとしての可能性がまだまだあるように感じて嬉しかったです。あとは、当時の4年生のために何かしたいと思って、たまにスタッフ会とか言って



餃子パーティーを開催していました(笑)仲良くなることはすごく大切だし、やはりコミュニケーションって大事なんだなって思ったから提案しました。今思えば、1つ上の先輩方は一緒に頑張りたい！と思わせてくれるのが本当に上手でした、。

4年生になって、私はスタッフリーダーになりました。個人的には役職とか関係なく1人のスタッフとして、どれだけ熱心に取り組めるかだと考えていました。ずーっと昔の掲示板にも書きましたが、「自他ともにいてよかったと思えるようなスタッフになりたい」



と考えていました。でも、現実問題そんなにうまくいっていませんでした。考えをどれだけ語りかけたか、一緒に頑張りたいって思ってくれたのかな？何度も不安になりながら4年生を過ごしました。あの先輩ならこうしてたのかな、私が言うときつ聞こえるかな、正直4年生が今までで1番しんどい時期が多かったです。そういう時に限って、悲しい連絡がたくさん来ます。本当にメンタルがズタボロになりかけたときもありましたが、たくさん同期に助けられました。

かけがえのないラクロス生活のそばにはいつも「同期」がいます。私はこれからもラクロスに審判という形で関わっていくつもりです。4年間続けてよかったこと、たくさんありますが、本当に一生懸命で努力家の多い、無愛想かと思えば熱い、優しく強い、そんな愛おしい同期たちに出会えて、一緒にたくさん時間を共にしたことです。みんなに出会えて本当に幸せです。こんなにもラクロスが大好き！って思えたのも同期たちの頑張りはずっと見てこれたからだと思います。

25期でよかった！！みんなだいすき！！

最後に、私を入部したい！と思わせてくれて入部してからも可愛がってくれた沢山の先輩方、可愛かったのにいつの間にか頼もしくなっている後輩たち、こんなに関わるとは思ってなかったほど真摯に相談に何度も乗ってくださったOBGの方々、応援し続けてくれた両親、たくさん叱ってくれてたくさん褒めてくれたコーチの方々、そして大切な大切な同期のみんな。本当にたくさんの方々に支えられて今があると思います。こんな素敵な部活に、こんな最高のスポーツに出会えて幸せです！！

本当に本当にありがとうございました！！！！

それではどろんっ！



杉本 健介 (すぎもと けんすけ)

工学部理工学科社会基盤デザインコース
ポジション：MFリーダー、大会委員
進路：大学院進学

4年間続けてよかったことは、たくさんあるのですが2つ書きたいと思います。

まず1つ目は仲間に出会えたことです。コーチや先輩、後輩も本当にいい方々に恵まれました。しかしやっぱり同期のみんなに出会えたことが一番良かったです。4年間を通して楽しいこともたくさんありました。その分辛いことや苦しいこともありました。これを乗り越えることができたのも仲間がいたからです。正直、入部した時には想像できなかったです。

引退してさらにこのメンバーでやりきることができてよかったと感じています。同期のみんなへ、ありがとう。そしてこれからもよろしくお願いします。

2つ目は継続することの大切さです。自分は性格上できないことが嫌いです。だから練習で上手いいかないことや、試合でできなかったことはできるようになるまで練習し続けました。昔は1on1が好きではありませんでした。しかし毎週のようにナイターで1on1をして、

自分の武器にすることができました。パスキャやシュートもそうです。これら基礎は一朝一夕ではなかなか身に付きません。日々コツコツと練習することで身に付きます。筋トレはもちろんそうです。運動するにあたって身体を作ることが基礎に当たります。上手いいかないこともあると思いますが、続けているうちに見えてくることもたくさんあります。自分は4年間を通して多くのことを得ることができました。引退しても新たな目標を見つけてコツコツとやっていきます。



久保 琴音 (くぼ ことね)

工学部理工学科情報光システムコース
ポジション：TRリーダー
進路：大学院進学

4年間続けてよかったことは「たくさんの人に出会えたこと」です。

いつまでも背中を追いかけたいと思う尊敬する先輩や1年生の頃から沢山お世話になった先輩、可愛い後輩、新歓してくださった自分が1年生だった時の4年生までの先輩だけではなく「年の離れた社会人の先輩」や他大学での同期などラクロス部に入らなければ決して関わることのなかった人達と出会えたことです。4年間いっぱい悩んでいっぱい壁にぶつかる時もありましたがラクロス部に入ったからこそ出会えた素敵な人たちの支えがあったからこそやりきることが出来たと思っています。

胸を張って自慢したくなる大切な人たちに出会えることができて心から4年間この部活を続けてよかったと思っています。





高橋 玄 (たかはし げん)

生物資源産業学部生物資源産業学科食料科学コース
ポジション：FOリーダー、新人委員
進路：就職

4年間続けて気づいたことは、本当に恵まれた同期、先輩、後輩、コーチの方々に出会えて良かったこと、人として大きく成長できたことです。大学で出会った仲間は一生の仲間とよく言われてきましたが、本当にそうだと思います。運命という言葉を引き退してからものすごく身に染みて感じています。本当に徳大ラクロス部に入って、人に恵まれてるなって感じた印象的な出来事は、4年の松山戦からfinalまでの1週間です。松山戦の前日の



愛媛戦で情けないプレーしかできず、落ち込んでいた自分を、松山戦で取り返せばいいともう一度奮い立たせてくれたこと。松山戦で試合開始直後ブレイクで点取った時に全員が喜んでくれたこと。みんなが自分に寄ってきて喜んでくれたこと、肋骨が折れて落ち込む自分に、二地区に連れて行ってやるからはよ治せとってくれたこと。finalでどうしても出て岡大にFO勝つ、というわがままを聞いてくれて、稲垣さんのところまで毎日車を出してくれたこと。岡大戦、ロングFOでブレイク作って点をとってくれたこと。試合前、絶対不安と緊張で押しつぶされそうになってた2年生FOが代わりに堂々と戦い抜いたこと。そしてfinalに無理を言って一本出してもらったこと。これ全て徳大ラクロス部の同期、先輩、後輩、コーチ



方ではなかったらこんなことしてもらってなかったと思います。4年間、良いことも辛かったこともたくさんあったけど、こんな恵まれた仲間がいたから乗り越えられたと思います。

また、人として成長出来たということで、自主性が問われるこのラクロス部の活動は自分を変える大きなターニングポイントだったと思います。岡大に勝て、東北と戦う、そして勝つためにFOリーダーとして何が出来るかを考えて、徳大FOは強いという歴史、ブランドを自分が創始者として作っていきたい、という大きな目標を立て、色々なチャレンジを思い切ってできたことが、非常に自信になったと思います。おそらく自主性が問われる、スタートラインが誰も一緒に、努力が実を結ぶこのラクロスだったからできたことだと思いますし、徳大のラクロス部だからこそ、大きな目標を立てチャレンジし続けたのだと思います。私は「チャレンジの継続が自信につながる」という言葉を後輩に繋いでいけたらなと考えています。



本当に4年間徳大ラクロス部を続けて良かったです！これからは徳大が全国常連校となるようにチャレンジしていきたいです。

本当に皆様お世話になりました。





東 大智 (ひがし だいち)

理工学部社会基盤デザインコース

ポジション：G、広報委員

進路：大学院進学

ラクロスを続けたこの4年間は、まぎれもなく人生におけるターニングポイントになりました。それは、「ラクロスの面白さの発見」、「人としての成長」、「最高の仲間」があったからです。

大学入学と同時にラクロスという新しい競技と出会い、ゼロからのスタートだったものの、練習を重ねるにつれて上達する自分を実感することができました。またラクロスは、考えることがより重要な競技であり、うまくなる方法は何通りもあるところもラクロスの面白さの一つでした。ゴーリーであった自分は、セーブフォームやポジショニングを4年間で何度も変えながら試行錯誤しました。なにが正解だったのかはわかりませんが、自分に合ったプレースタイルを追求していくところにも面白さを感じていました。学生ラクロスからはここで引退ですが、ラクロスの面白さはこれからもっと発見できると思います。

この4年間は、一言では到底言い表すことはできません。それくらい、濃く険しい日々でした。だからこそ、人としての成長があったと思います。大学スポーツは学生主体で運営・活動していくので、自由度が大きい分、責任も伴います。自分は、学連のなかでも活動をしましたが、一つの大会、試合を行うためには膨大な準備と多くの方の協力があることを肌で感じることができました。その中で、たくさんの学生や社会人方と関わる機会を



得ることができ、自身の価値観や考えに良い影響があったと思っています。4年間続けることでよかったと一番に感じることは、最高の仲間ができたことだと思います。特に4年生になってからは、衝突や食い違いもありました。しかし、同じゴールに向かって頑張っていることは確かだったので、最高学年としての一年を走り抜くことができました。ふざけあったこともたくさんありますが、誰にでも誇ることでできる大学生活を最高の仲間と過ごすことができました。

この4年間は本当に、本当に最高の4年間でした。ラクロスと出会わせてくれ、最高の仲間と出会わせてくれ、人として成長させてくれた徳島大学男子ラクロス部には感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました。



多田羅 佑太 (たたら ゆうた)

理工学部理工学科社会基盤デザインコース
ポジション:DF、主務
進路:大学院進学

僕を感じる4年間続けて良かったことはいくつかあります。

まず一つ目は、最高の仲間ができた事です。やはり4年間の中で苦しい時、しんどい時もたくさんあります。そのなかで、励まし合い、一緒に乗り越えた仲間は大切な存在です。これからもずっと関わっていく大切な仲間になりました。また、同期はもちろん先輩、後輩とも仲良くなることができ、ラクロスのことだけに限らず、多くのことを学べたり、一緒に楽しめた事がよかったです。

2つ目は、部活を通して、努力を続ける大切さを学ぶことができた事や忍耐力がついた事です。やはり、思うようにいかず、壁にぶつかったり、コロナの影響で練習や試合が十分にできない中で、そのような状況をどう乗り越えたらいいか考え、試行錯誤しながら努力し続けることで上達に繋げることができたと思います。また厳しい練習なども、最後まで頑張り通すことで忍耐力をつけたのも良かったと改めて思います。最後にこの4年間、ラクロス部の一員として過ごしたことによる成長は計り知れないものがあり、これからの人生の糧にしていきたいと思っています。



浅井 一步 (あさい かずほ)

理工学部理工学科応用理数コース
ポジション:Gリーダー
進路:就職

こんにちは。25期の浅井です。先日のリーグ戦では応援ありがとうございました。

早速ですが4年間続けてよかったことは、日々のアフターやナイター練、自主練です。1年生の頃から空きコマなど隙間時間があればグラウンドへ行っていました。

「練習は自主練でできるようになった事を披露する場」と自分が1年生の頃ヘッドコーチがおっしゃっていました。1日15分でもいいから練習時間以外でクロスを

触ることが大事だと思います。1人で黙々とこなす事も良いけど、やっぱり同期や先輩、後輩を巻き込んでやるのが楽しいです!

3年生のときは先輩によくシュート練習に付き合ってもらっていました。そのおかげもあって自分はゴリーとしてセーブを武器にすることができたと思っています。

自主練は課題を克服することもできるし、武器を磨くこともできます。魅力しかありませんね!結局何が伝えたいかというと、地道にコツコツが一番なのです。4年間という年月をどのようにして過ごすかは自分次第です。後悔の無いようにやり切ってください!





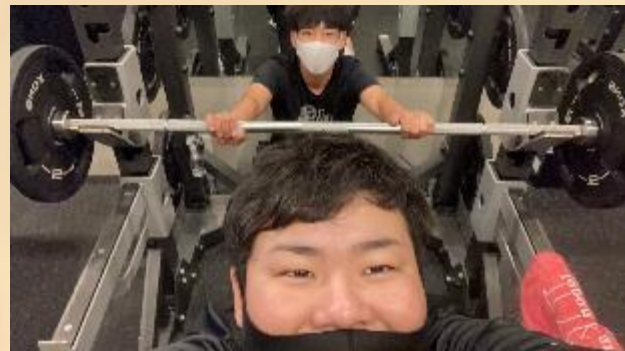
楠橋 圭太 (くすはし けいた)

工学部理工学科応用化学システムコース
ポジション：G
進路：大学院進学

一番大きなことは、最高の同期に出会えたことです。特に自分にとって冬場のラントレは地獄で何度も挫けそうでしたが、その度に同期が話しかけてくれて気持ちを鼓舞してくれたり、ポジティブな言葉で励ましてくれたり色々感謝しかないです！この同期で最後までラクロスできて本当に良かったし、いっぱいバカして楽しかった！「同期 love！」

もう一つは、最後の青春をガチな部活でやれたことです。トレーナーの稲垣さんは、「大部分の人にとって大学での部活は最後の青春。この先、ラクロス部のような環境でスポーツすることはほとんどない」とおっしゃっていました。自分にとってこんなガチなチームは初めてで、色んなしんどいことも多かった。でも、4年間続けてきて継続力、忍耐力や精神力はそこの大学生よりすごくついたと思います。

今振り返るとすごく濃い4年間でした。最高な同期、先輩や後輩に恵まれて、この徳島大学男子ラクロス部でラクロスできたことをすごく誇りに思います！すごく楽しかった！ありがとうございました！



新屋 立葵 (しんや りつき)

工学部理工学科情報光システムコース
ポジション：MF
進路：大学院進学

4年間続けて良かったことはたくさんありますが、新しい自分を見つけることが出来たというのが一つ良かったことだと思います。例えば、新歓や試合のハイライトなどの動画を作ることがありそれに取り組みめたり、ネタを披露する機会がありいつしかネタをするのは寛太郎と玄と僕の3人なんてことにもなりました。ラクロス部に入らなければこんなことはしなかっただろうし、こんな自分とは出会えなかったと思います。

もう一つ良かったこととしては、やっぱり最高の同期達と出会えたことです。この仲間達じゃないとこんなにアツイ4年間は過ごせなかったと思います。最高のラクロスライフをありがとうございました。





加藤 大暉 (かとう だいき)

理工学部理工学科応用化学システムコース

ポジション：AT

進路：就職

本気で楽しむ気持ちを持って取り組むことの大切さを知りました。2.3年生の時はネガティブな気持ちで練習に取り組むことが多かったため、プレーも上手いかいかないし、余計にラクロスをするのが嫌になっていく一方でした。しかし、色んな人に励まされ、気持ちを切り替えて、楽しむことに全振するとプレーも良くなり、ラクロスをするのが楽しくて仕方ないくらいでした。これはラクロスだけじゃなくて勉強や仕事にも同じことで、やらされてるって気持ちより、自分から楽しんでするって気持ちが大事だと4年間続けて1番大事だと学んだことです。



小野 健太郎 (おの けんたろう)

理工学部理工学科情報光システムコース

ポジション：MF

進路：大学院進学

4年間続けてよかったことは大学生活が充実したことです。朝という時間にスポーツをすることで1日のいいスタートをきることができました。またラクロスという大学からの新しいスポーツにふれることができその中で自分の成長も感じれてとても充実していました。そして後輩、先輩、コーチ、OBの方々と沢山のひととラクロスを通して関わることができて本当によかったです。



◆TEAM SPONSOR LINK

🏠 アイフルホーム徳島 人事グループアカウント

https://instagram.com/rshome.recruit?utm_medium=copy_link

🏠 アイフルホーム徳島北店

https://instagram.com/eyefulhome.tokushimakita?utm_medium=copy_link

🏠 アイフルホーム徳島南店

https://instagram.com/eyefulhome.tokushimaminami?utm_medium=copy_link



RS HOME



◀第9号作成者

3年MG 宮田 侑奈 (右)

1年TS 定平 真依 (左)



be a messenger

2021 ORANGE SUNSHINE

